

副院長

なぜ私たちは栗橋病院に集ったのでしょうか？

20 周年を迎えるにあたって

副院長 白髪 宏司

I. “人は人と出会って人となる”

ずっと大切にしている言葉です。病院とは本来、「病める方々のためだけにあります」。しかし近年、その運営はあまたの難題を抱えます。限られた人材はもとより、限られた国の医療費のなかで、病める方々のためだけに機能する病院を維持することは容易ではありません。病院機能を維持するために、最も大切なものは人の力でしょう。それも、内に向かう力でなければなりません。

スタッフの皆様は、患者さんとは一期一会の心で担当業務に専心されていると思います。そんな皆様も、栗橋病院での人との関り合いや仕事の中に、不安なことや嫌なことがあるでしょう。殊にスタッフ間の問題は、深刻なことになりかねません。しかし、人と人との出会いは、私達の意志を遥かに越えた所で息衝いているのです。栗橋病院に集ったことは、偶然と言い切ることも可能ですが、ここに働く同

志の皆様は必然的な偶然で出会っています。もしも落ち込むことがあれば、その状況は“人間万事塞翁^{ジンカン}が馬”（災い転じて福となすに類似）と読み換えることも出来るでしょう。

20 周年を迎えるにあたり、この必然的な出会いの中で、当院のヘッドクォーターの一員を担当させて頂いていることに、改めて高い使命感と責任性を感じています。小児科・院内感染防止対策委員会・臨床研修医管理委員会の責任者としても、全体が高まる仕事をしたいと願います。働き甲斐のある職場でなければ、病める人々を包み込むことなど出来ません。当院に集った皆様の持たれる、それぞれに素晴らしいパワーを交換し、共有し合ひましょう。

II. “It’s my pleasure!” が聞こえてくる職場に

病院でのそれぞれの役割を通して、私たちが得られることはとても沢山あります。何のためのサービス（奉仕）業かを自問するならば、「自らの優しさや人間性を高めるため」とも答えられるでしょう。

好きな言葉の一つが“**It’s my pleasure**”です。米国生活中に何度も言われ、その都度ハッとした言葉です。親切や手助けを受けた時にお礼を言うと、即答される言葉です。“どういたしまして、それは私の喜びです”。なんと優しい言葉でしょう。自分もいつもこのフレーズで即答したいと願うのですが、タイムリーで自然な返事は、決して容易ではありません。「相手の人が喜んで下さった、自分も嬉しい」、と素直に感じなければ出てこないフレーズです。当院のスタッフが、あちらこちらで患者さんに、そして仲間同士で「それはよかったですね！私にとっても喜びです！」と、自然に交わせる職場に一步でも近づける。それも病院管理者の大切な任の一つだと思います。これからも皆様が楽しく仕事が出来ますように。「患者さんのためだけにある病院」であり続けるために。

殊に医療従事者は、自らの心身が健康でなければ、それぞれの業務で力を発揮することは困難だと思います。でも、それは決して容易な自己管理ではありません。スタッフ全員が健康でありますように。